

さて土曜日は広畑臨床漢方研究会で竹田先生の最後の講演でした。

香川修庵は姫路出身の医師であり、日本の生薬を使った治打撲一方を編み出したとのこと。姫路出身とは知りませんでした。また当院の歴史、勉強会の移り変わりなどの思い出話と数年後には吸収される当院の行く先など。

さらにこちらにも最後の木原先生の症例提示。リウマチ患者が大腿骨果上骨折で入院、骨接合したけどしばらく非荷重（足をつかずに移動）。もともと飲んでたリウマトレックスは術後中止して、リハビリはすすみます。歩行器や車椅子に手を使うので術後3週で手や肘がパンパンに腫れて痛くて動かないと。

そこで竹田先生によってホワイトボードで患者の「証」をみんなで考察。自ずと処方やしぼられる。そこで細かな使い分けを生薬に分解して解説していただきました。見事な解説で私の用意したスライドはほとんど要らずです。

そこで

- 1、実熱（手指の腫脹、熱感）をとるのに「越婢加朮湯」  
麻黄＋石膏で消炎 蒼朮で腫脹を取るなど 短期的な症状改善
- 2、虚熱（リウマチの慢性炎症）を改善するのに「滋陰降火湯」  
知母、麦門冬、天門冬などが潤しながら熱をさます 長期的な症状改善

リウマトレックスを再開する前にこの2剤を1週間の内服で劇的に症状は消失していました。

けっして漢方だけでリウマチが治る訳ではないですが、今ある症状をスパッととったり、長期のコントロールを落ち着かせたり、不定愁訴を改善したりと上手に併用すれば引出しはたくさんあるので便利な武器になります。

こんな時にも、大腿骨頭骨折 Pipkin type II + 後方脱臼→整復不能で緊急手術。DAA で入ったが整復難しく会が終わって参戦して、Acutrak で内固定。漢方から超急性期までやっている特色が出た一日でした。

竹田先生、長い間ありがとうございました、又遊びにきてください。

